

授業科目(ナンバリング)	介護総合演習 I (DD212)			担当教員	大町 いづみ 浦 秀美 久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	2 単位	開講年次・時期	2 年・通年	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は、介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。そして、介護実習 I を円滑にすることを目的とし、実習の教育効果を上げ介護観を育てる事がねらいである。介護福祉士を目指す自覚を持ち、資質や能力を養っていく。</p> <p>演習では、実習施設に関する事前学習を行う。また、介護技術の確認や施設オリエンテーションのための訪問に向けた学び等、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習を行い、介護実習 I の内容を身につける。実習終了後は実習の振り返りや介護技術研究を展開し、介護の知識や技術、実践を統合する。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている(介護福祉士としての)専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							⑤⑥⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習で何を学びたいかを説明できる。</li> <li>・実習後、学んだことや残された課題を深化させることができる。</li> <li>・実習後の介護技術研究にて介護技術の学びを発表できる</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習計画書</li> <li>・介護技術研究</li> <li>・発表</li> </ul>	10% 20% 30%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習評価(他者評価)を自己分析できる。</li> <li>・実習施設に関する情報を収集しまとめることができる。</li> <li>・自己覚知をした上で、実習プロフィールをまとめることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価レポート</li> <li>・実習計画書</li> <li>・実習プロフィール表</li> </ul>	5% 5% 5%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習後の報告会で他の学生と意見を交わし合うことができる。</li> <li>・グループ構成員と意見を交わしながら研究を進めることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習後報告会</li> <li>・介護技術研究</li> </ul>	5% 10%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習取り組み、進捗報告を聞くことで、他の実習生と協調できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰校日報告</li> </ul>	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習計画書(15%)：実習要綱や自身が取り組みたいことを計画書に反映しているかによって評価する。</li> <li>・介護技術研究(30%)：研究取り組み状況にて評価する(ディスカッション、調べ学修、研究成果レポート作成)。</li> <li>・発表(30%)：介護技術研究の成果の発表にて評価する(発表スキル、研究成果レポートをもとにした発表原稿)。</li> <li>・評価レポート(5%)：実習評価の自己分析や残された課題についてレポートしているかによって評価する。</li> <li>・実習プロフィール(5%)：自己覚知に基づいたプロフィール作成にて評価する。</li> <li>・実習後報告会(5%)：後期初回に行われる報告会に向けた準備状況や報告状況にて評価する。</li> <li>・帰校日報告(10%)：実習進捗報告にて評価する。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>前期：介護実習 I の事前・事後学習も含めた科目である。これまでに学んだことについて演習を通して確認し、学習到達状況に応じて総合的に学習する。また、実習に関するオリエンテーションも行う。</p> <p>後期：実習の振り返りを実習後報告会で行う。その後、実習振り返りを介護技術研究として実施し、ディスカッションや個人ワーク、ペアワークやグループワークを行う。研究内容の成果は発表する。評価レポートや介護技術研究成果レポートは、教員所見を付したものを返却したり、発表時にフィードバックを行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版株式会社</p> <p>参考書：長崎国際大学介護実習要綱</p> <p>指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会(2019)最新介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習』 中央法規出版株式会社</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

本演習は介護実習との関連する科目です。社会に出るということを意識し、社会人としての対応を求めます。本授業に限ることではありませんが、授業の欠席や遅刻、提出物の期限厳守などについては十分気をつけて下さい。また、社会人としてのマナーや服装、態度を身につける努力をしてください。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体オリエンテーション	介護総合演習と介護実習の意義について学ぶ。 実習スケジュールを把握する。	予：テキスト冒頭の「まえがき」確認 復：配付資料整理
2 3	実習先に関する知識と理解 ①②	特養・老健・社協等、実習先の概要と業務内容について学ぶ。特養・老健・社協の一日を理解する（利用者の一日・介護職員の日）。	予：実習先概要調べ 復：配付資料再読
4 5	実習オリエンテーション① ②	長崎国際大学介護実習要綱から介護実習内容、実習内容を記す記録について学ぶ。	予：実習要綱の確認 復：実習要綱の再確認
6	個人情報保護と守秘義務 実習オリエンテーション③	個人情報と守秘義務についての理解を深める。「個人情報保護に関する誓約書」を作成する。 次回の事前学習に向けての準備を行う。	予：倫理綱領を読む 復：事前学習に向けた整理
7	実習オリエンテーション④	実習生に求められることや必要な事前学習事項を明らかにする 実習プロフィール表・実習計画書の準備を行う。	予：事前学習事項の整理 復：プロフィール・実習事項の整理
8 9 10	実習オリエンテーション⑤ ⑥⑦	実習プロフィール表・実習計画書を作成、完成する	予：プロフィール整理 復：プロフィール・計画書修正
11 12	実習記録の書き方・記録のトレーニング①②	一日の課題設定方法、一日の流れの記入法などを学ぶ。 考察と感想の違い、振り返りのポイントについて学ぶ。	予：実習記録の書き方で分からない点をまとめる 復：実習記録を作成する
13 14	実習オリエンテーション⑧ ⑨	巡回指導や帰校日指導の目的、準備すべきこと(課題)を確認する。お礼状の書き方、実習後のまとめの進め方の確認をする。	予：実習計画の最終調整 復：配付資料整理
15	最終オリエンテーション	実習施設での事前オリエンテーションの確認を行う（実習計画の再確認、マナーや服装・態度の再確認、問題発生時対応の確認、個人情報保護、感染予防）。	予：体調管理必要事項確認 復：最終準備を行う
16	実習後報告会 知識と技術の統合①	実習で学んだことや残された課題の報告を行うことで、実習を振り返る。	予：報告内容の作成 復：配付資料の再読
17	介護実習 I の自己評価と他者評価	実習の自己評価を行う。実習指導者からの評価（他者評価）と比較し、実習での学びを深化させ、残された課題の明確化を図る。	予：実習の自己評価の検討 復：自己評価と他者評価の振り返り
18 ～ 29	実習に必要な知識・技術の確認①～⑫ 知識と技術の統合②～⑬ 介護実践の科学的探究①～⑫	1. 実習施設での研修会参加 2. 介護技術研究の実施（入浴・排泄・食事） 個別の学習到達状況に応じた総合的な学習として、実習で取り組んだ事柄、特に介護技術を事例として取り扱い、事例を用いた検討・研究を行う。 3. 介護技術研究発表 入浴・排泄・食事における研究成果をグループ毎に発表する。発表の際、実習指導者等も参画する	予：実習取り組み内容の整理、次回演習コメント整理 復：ディスカッション内容整理、研究報告書作成
30	まとめ		予：本演習での学びの整理 復：本時の整理